

# 令和5年度授業改善推進プラン（校長作成シート）

学校名 西東京市立谷戸小学校

校長名 伊藤 正 明

## 1 調査結果を踏まえた本校の状況

本年度の「全国学力・学習状況調査」（6年生）の結果では、国語の「B. 書くこと」の領域の正答率が、都および全国の正答率を上回った。特に、図表やグラフなどを用いて自分の考えが伝わるように工夫して、表現する力がついていることがわかった。また、「A. 話すこと・聞くこと」の領域の正答率が、都および全国を下回った。話し手が伝えたいことや自分の伝えたいことの内容を捉える力の向上を図る必要がある。

算数においては、分類整理されたデータを基に、目的に応じたデータの特徴を捉える問題及び正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察する問題において、都や全国の正答率を大きく上回る結果となったことから、データを活用する力や既習学習を基にして、思考・判断する力が高まったと考えられる。また、「C. 変化と関係」および「B. 図形」の正答率が著しく低いことがわかった。このことから、比例の関係を用いて未知の数量を求める力と、図形を構成する要素に着目して、それぞれの図形の意味や性質、構成の仕方についての理解が不十分である。

## 2 教員組織等の状況

初任の教員や20代、30代の教員が半数近くを占め、教員の平均年齢(管理職を除く)は41.3歳と若い集団である。若い教員が多いので校内に活気がある一方で、学校全体の教育力をいかに高め、維持していくかが課題である。そのような中で、授業力の向上を図るために、全校で校内研修会を計画的に実施したり、主幹・主任教諭によるOJT研修を月に1～2回実施し、日々の授業や児童理解等に役立つ実践的な研修を進めている。また、校長からは、その時々に応じたミニ研修や教育情報等を提供し、日々の指導に役立てるように指導・助言している。これらの取組みにより、授業力向上に向けた教員一人一人の意識の高まりを感じる。

## 3 地域の状況

本学区は大きな街道やバス通りに挟まれ、西武新宿線田無駅付近から西武池袋線ひばりが丘駅付近までの南北に長い学区である。また、東大農場やいこいの森に隣接し、緑豊かな地域で、学区内には戸建住宅やマンションが多く立ち並び、落ち着いた環境である。保護者・地域は学校に対して大変協力的で、教育に対する意識が高い家庭が多い。

## 4 前年度までに行った学力向上に係る取組を踏まえた本校の状況

今年度から、「身近な環境に興味・関心をもち、主体的に関わろうとする児童の育成～環境教育の実践を通して～」を研究主題として、校内研究を実施している。研修を進めるに当たり、講師を招聘し、総合的な学習の時間の進め方や主体的な学習について学び、3回の研究授業を通して学びを深めてきている。

具体的には、特別支援教室の教員及び専科教員が各分科会に所属する形で、3分科会(低中高学年)を構成し、各分科会がそれぞれ1回(年間で3回)の研究授業を行った。研究協議会では講師を交え、指導案や指導法等について検討した。

## 5 本校で取り組む学力向上策

本年度は「環境教育」をテーマに教科を絞らずに授業力向上を目指し、年3回の研究授業を中心に、校内研究を進めている。日々の授業では、日常的にICTを活用し、発達段階に応じ児童がタブレット端末を文房具の一つとして利用できるような授業を充実させることで、学びを深め、授業力の向上を目指し子どもたちの学力向上につなげていく。各学年・各教科で作成したICTでの教材は、クラウド上で共有し活用している。